

あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日 / 2010年9月14日 ●発行所 / (財) 淡海文化振興財団

No.

75

2010年 秋号

福祉理美容士養成講座

～現在、眠らせている理美容の学びを活かしてみませんか？～

高齢者や障がいをお持ちの方々のお宅や施設に向いて、寝たきりの方のカット方法や車いす操作、学科では感染症、高齢者に多い疾病等学んでいただきます。これから訪問理美容をお考えの理美容師対象の養成講座（カットをされると元気になられます。）

日時●学科：11月29日（月） 実技●12月6日（月）

会場●聖泉大学（彦根市） 定員●20名

その他●詳細は下記センターまで

テキスト解答郵送締め切り●11月15日

連絡先●NPO法人 日本理美容福祉協会滋賀米原センター

TEL・FAX：0749-58-1566 URL：http://www.f-npo.org

e-mail：npo-siga-yumi@zb.ztv.ne.jp



「おうみこっとな夢つむぎ」綿摘み体験

綿の種まき～綿摘みまでの農作業、糸紡ぎ～機織りなどの加工体験を、地元の方、障がい者施設、小学校、大学生と一緒に活動しています。昔ながらのすべてが手作業で時間がかかりますが、暮らしの中に技・手作りの楽しさを体験してみませんか？



日時●11月14日（日）10：00～15：00

会場●彦根市下岡部町 公民館横

参加費●200円 持ち物●弁当、お茶、長靴 定員●約80人

連絡先●おうみこっとな夢つむぎ 代表 澤とし江

TEL・FAX：0749-43-7201



特集●淡海とびっくす ②

市民活動団体の社会的責任(SR)って何だろう？

～あらゆる組織の社会的責任～

■NPOサポートポケット ①

情報公開は誰のため？

■市民団体活動紹介のわっ ⑤

●長浜み～な編集室

●特定非営利活動法人近江湖西会

●m-fat (モファ) More Field Art Team!

■あうみネット★INFORMATION ⑦

運営委員 VOICE

「居場所があるという安心」

根木山恒平
栗東芸術文化会館さくら・ボランティア
おうみ未来塾・7期生

小学4年から中3までお世話になった少年野球チームは、いま思えば、地の野球好きのおっちゃんや、子どもの親を中心に運営される市民活動団体です。武蔵丘陵のニュータウン、ほとんど核家族世帯な集合住宅の街で育った私にとって、自分の親以外の大人と接する数少ない機会でした。その後、家を出て他所で暮らしてから、たまに地元に戻って、ふらっと立ち寄れる唯一の場所がここ。行けば必ず「ねぎ、ちょっとキャッチャーしてくれ」と変わらぬ声がかかります。慌ただしい日々の中でも、地域の中に常に変わらず集える場所があるという安心を、「自分たちで大切に守っていききたい」と素直に思える原体験となっています。



※運営委員は、市民の意見を当財団の運営に反映するため、公募も取り入れた委員を設置しています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

わがまちのシニア講座 「生きがい塾」

8期生 河本正信
グループ：里山コミュニティ夢織

最近、私たちの町中でも年々シニア層の人々を多くみうけられるようになってきました。そんな私もシニア層真っ只中の一員です。

「野洲市社会福祉協議会」主催のシニア講座「生きがい塾」開催のお手伝いを有志仲間と3年前よりいたしております。長年職場と家庭中心の生活をされていた多くの人々が「さて、これから何をしようか?」と考え、今までとは違う新しい生活スタイルを築いていくことが求められます。地域コミュニティの一員として、「わがまち」において楽しく・いきいきと生活を送っていただけるための、「仲間づくりの場・きっかけを提供すること」・「第二の人生を社会の一員として地域社会に貢献できること」を目的としています。この講座をきっかけに参加者の“三つのわ”(輪・和・話)が広がっていることを実感しており、更なる発展のために支援していきたいと思っています。



※おうみ未来塾は、地域の課題解決を実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。

●NPOさぽーとぽけっと●

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

NPO SUPPORT POCKET

情報公開は誰のため?

今回はNPOに役立つITシリーズ第2回です。NPOの情報公開は誰のためのものなのか、具体的にブログやホームページなどを使ってどのよう項目を載せたほうがよいのかを、京都府でNPOを対象に、マネジメントから資金調達、情報開示にいたるまで総合的なサポートを行っているNPO法人きょうとNPOセンターの野池雅人さんにご紹介いただきます。

ITの普及のおかげで、ウェブサイト、メールマガジン、ブログ、最近ではツイッターなど、NPOや市民活動団体の情報発信の手段はこの10年余りで急速に多様化しています。こういったITの活用は資金や人的資源の限られたNPOにとっては非常に大切なものですが、ともすると、自分たちNPOが出したい情報(告知や募集など)を発信しているだけで、本当に会員の方や市民の方が知りたい情報(年次報告、事業成果、収支報告)が必ずしも発信されていないということがよくあります。

ここ数年ですが、NPOセクターにおいてもインターネットを活用して「出したい情報=広報的なもの」ばかりでなく、「(会員や市民の方が)知りたい情報=情報公開」の必要性が言われ始めています。法人格を取得されている方々からすれば義務としてあたりまえのことではありますが、詳細な組織情報、会計や財務に関する情報、活動の成果に関する情報等を積極的に公開することを通じて、組織の透明性や開かれた運営がなされ

ていることを伝え、地域の中での信頼と共感に結びつけようとするものです。

とはいえ、情報公開の必要性はわかっているも具体的に何を発信すればよいのかわからない方も多いと思います。そういった方には、日本財団がNPO向けに無料で提供をしている「公益コミュニティサイトCANPAN(カンパン)」をお勧めします。ここでは信頼や共感につながるための情報開示項目が示されている他、団体ブログの開設などもできます。また、最近では情報開示を積極的に推進しているNPOのみを対象にした助成金、融資、寄付支援の動きも出始めています。

ぜひみなさんもこれを機会に広報媒体としてのIT活用とあわせて、信頼性向上のための情報公開を検討されてはいかがでしょうか。すぐに効果の得るものではありませんが、時間をかけた情報公開の蓄積がNPOにとってプラスになることは間違いありません。



水谷 綾さん

(大阪ボランティア協会 事務局長)

●プロフィール●

1968年生まれ、大阪府大阪市在住。1997年に大阪ボランティア協会に入職。以来、NPOの運営コンサルティング業務や研修活動、起業支援、企業市民活動の促進など、市民活動推進活動に従事。社会的責任に関する国際規格ISO26000の開発に参加。08年より大阪大学人間科学部客員准教授など。この6月に事務局長に就任。好きなことは、よく食べること、気持ちよく走ること、思いきり笑うこと。
 著書：大阪ボランティア協会「NPOと行政の協働の手引き」(共著・2002年)、大阪ボランティア協会「実践！NPOの会計・税務」(共著・2004年)

市民活動団体の社会的責任(SR)って何だろう？

企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)については、「環境に配慮しています」、「地域の方々や福祉施設で活動しています」など、さまざまな活動が紹介されています。

企業は信頼と持続可能な活動のためにCSRを進めていますが、最近では市民活動団体(NPO・NGO)、自治体など、あらゆる組織が社会的責任(SR: Social Responsibility)について認識し、取り組む必要があると考えられています。

市民活動団体の社会的責任(SR)って何でしょうか。どんな取り組みが必要なのでしょう。今回は、市民活動団体のSRについて、企業の取り組み、そして、あらゆる組織のための社会的責任の国際規格ISO26000についてご紹介します。

市民活動団体があらゆる組織を結びつける鍵になる

大阪ボランティア協会 事務局長

水谷 綾さん

Q あらゆる組織の社会的責任(SR)が話題になってきています。

企業の社会的責任(CSR)では、説明責任と法的責任として、生産やサービスの提供に関して、環境保全や環境への負荷を減らすために配慮されているか、働く人の健康や人権は守られているか、活動を分かりやすく説明できているかということがまず問われていると思います。そして、地域への貢献活動について注目されています。企業はその活動が社会に与える影響が大きいため、責任も大きいですね。では、市民活動団体の社会的責任(SR)とは何でしょうか。

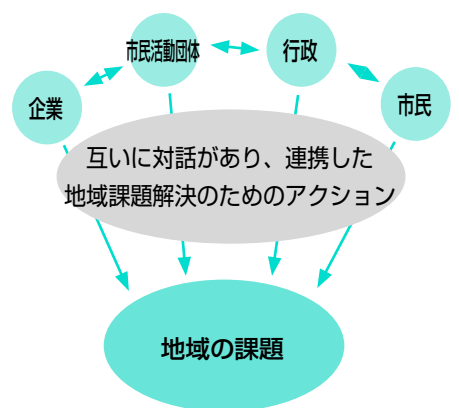
A あらゆる組織に期待される社会的責任(SR)とは、地域全体を見据えて、地域の課題解決のために、さまざまな組織が利害関係を越えて、信頼を紡ぎだすコミュニケーション力を高めることではないでしょうか。特に、市民活動団体の社会的責任(SR)には、組

織を越えて対話の場を作る機能が期待されているように思われます。

例えば、ある地域にゴミに関する問題があるとしたら、どんな地域課題にも様々な利害関係者(マルチステークホルダー)が存在します。ここでは市民活動団体がゴミを減らす活動をしていたり、企業が住民向けにゴミ廃棄に関する処理体験の場を提供していたり、ゴミを出す個人があり、それを減らそうとする個人もあり、行政の活動があり、と様々な組織や個人がこの問題に関わっている可能性があります。

市民活動団体、企業、行政、市民は、同じ課題を解決しようと行動していますが、視点やその手法が違います。それぞれの組織の考え方や目的が違うので、「文化の違いもある」と見ている方向も違うでしょう。そんな各ステークホルダーがより効果的に地域課題の解決のために対話をはじめ出会うの場や気運を高めるような場(プラットフォーム)づくりをできるのが、市民活動団体だと思います。企業も行政も市民活動団体が地域社会で重要なアクターになっていると認識しているからこそ、それぞれを結びつける役割が出来るのではないのでしょうか。

Q さまざまな組織との対話の場を作るためにも、市民活動団体



A は、地域のどのような課題をどのように解決しようとしているのか、活動の目的や内容を分かりやすく説明すること、説明責任や法的責任を果たすことが、互いの信頼を築くこととなります。

そうですね。その上で市民活動団体が社会的責任(SR)を考える時に重要な視点が、自分たち組織の成果だけに注目するのではなく、様々な組織(他の市民活動団体や企業や行政など)と様々な方法でコミュニケーションを取ることでその対話の姿勢と過程(プロセス)の中にこそ解決の道筋がだんだん見えてくることに期待したいです。さらには、市民活動団体という組織の自律性も重要です。自律という信頼のベースがあつてこそ、個々の行動を変え、当事者性をつむぎ、地域全体で社会を変えていけるテコになると思います。SRに関して言えば、地域課題解決の「触媒」としての市民活動団体の役割は大きいと思います。

【事例紹介】

沖島への恩返し、沖島を活性化 地域課題への株式会社日吉の取り組み

技術を持って社会に貢献する
会社と沖島との出会い

株式会社日吉(以下(株)日吉)は、廃棄物の収集運搬処理、上下水道施設の維持管理、環境や衛生、食品、飼料などの生物化学検査の業務を行い、80件以上の事業登録や許可を持つ。「会社は社会に貢献しなければ存続できない。またそれを支える技術をもってはじめて社会に貢献できる」を理念に昭和三十年に創業した。

昭和五十七年、オキシデーションディッチ法という日本では数少ない特徴的な下水道処理施設が近江八幡市沖島で供用開始され、その施設管理が沖島との出会いになる。

沖島は世界でも珍しい人の住む淡水湖の島。保元・平治の乱(一一五六～一一五九年)の折りに、源氏の落ち武者



▲沖島で開催された「うなぎ祭り」

▲「うなぎ祭り」で提供された、天然うなぎのうな丼

者が住み始めたという歴史深い島。昔は豊かな漁場と山の幸に恵まれていたが、びわ湖の開発と共に水揚げが減少し、その結果、後継者は少なくなり、人口の減少が目立ってきていた。

沖島の活性化を目標に活動する沖島21世紀夢プラン推進委員会から、(株)日吉に相談があったのは平成19年のこと。長年にわたり、施設管理を通して関わってきた島への恩返しにと、沖島の活性化に向けて共に取り組むことになった。

沖島の活性化のために産業を作る

びわ湖と山がそろうっている環境を活かし、さらに既存資源の有効活用を目指して、「環境・観光・教育」を三本柱に整備を始めた。

昔は松茸がいっぱい採れていたという山の復興では、岩手県の岩泉まつたけ研究所から先生を招き、技術指導を受けた。また、松茸の環境造りとして土壌分析や気象観測、成育試験なども取り組んだ。

外来魚のペットフードは、年間約350トン捕獲されている外来魚がビタミンE・タウリンなどの成分が高いことに注目。「飼い主にとって安心、

ペットにとって安全で健康に良い商品」を目指し、「完全無添加」・「びわ湖産」とした。既に商品化され、島民が製造にあたっている。

そしてこの夏は、初めて「うなぎ祭り」を開催。まずは「沖島を知ってもらい、びわ湖の魚の旨さを知ってもらいたい」という思いから「祭り」として島に来てもらうきっかけを作った。

沖島に通い続け、沖島の人とともに

「地元沖島の人と共に生産や開発が出来るようになるまでには時間がかかりました」と語るのは、沖島へ通う(株)日吉の社員 梶田由胤さん。松茸は昔、山で豊富に採れた記憶があるので、「じゃあ、やってみよう」と始まったのだが、ペットフード開発では、「湖の魚は乾燥できない」「無理」との意見が出ていた。沖島21世紀夢プラン推進委員会と開発を始め、一年かかって何とか商品化でき、関わる島の人々がずいぶん増えてきた。「共に汗をかき、現物ができてくると、信じてもらえるんですよ」とのこと。

「うなぎ祭り」は島全体が関わる企画として実行委員会を作った。今年3月末から準備してきたが「開催の前日まで、誰もが本当に人が来るのだろうか」と不安だったという。しかし、当日は想定の数、約千七百人の来場者で



▲びわ湖の魚を使って作られたペットフード

「島が沈むほど」の盛り上がりとなり、沖島の観光資源としての可能性が見えた。沖島の人が沖島を改めて見直し、島の人々が一つに団結した日となった。

味が好評であった琵琶湖の天然うなぎは、胸の黄色い「びわ湖のむなぎ」としてブランド化を目指し、まずは商標登録から次につなげ、発展させていきたいとのこと。

(株)日吉は二〇〇二年に洪沢栄一賞を受賞し、また海外に向けても社会貢献活動として十七ヶ国から大学生のインターンを受入れている。地域貢献活動の一つとして始まった沖島の人々との取り組みは、観光業者、ペットフード販売店、NPO法人、滋賀県や近江八幡市などさまざまな企業、団体との連携が深まり、広がっている。まさに地域の課題をさまざまな組織とのコミュニケーションを通じて解決している好事例である。

株式会社日吉
滋賀県近江八幡市北之庄908
URL <http://niyoshi-es.co.jp>

市民社会と社会的責任規格

株式会社 損害保険ジャパン 理事 CSR統括部長 関 正雄さん



関 正雄さん
●プロフィール●

1976年東京大学法学部卒業。同年安田火災海上保険（現・損保ジャパン）入社。システム企画部、社長室、営業開発第一部、近畿総務管理部を経て2003年CSR・環境推進室長に就任。2009年10月から理事CSR統括部長。「社会的責任に関する円卓会議」総合戦略部会委員（内閣府）、ISO26000日本産業界代表エキスパートなどを務める。【主な著書（共著）】「SRIと新しい企業・金融」東洋経済、「社会的責任の時代」東信堂、「会社員のためのCSR経営入門」第一法規、「環境リスク管理と予防原則」有斐閣

あらゆる組織のための社会的責任の国際規格、※ISO26000の発行が今年の12月に近づいてきた。国内でも企業を中心に各方面で「どう対応したらよいのか」と関心が高まっている。背景から原則、課題から具体的なアクション例まで、およそ社会的責任に関することは何でも書いてあるので、策定に関わった者としては是非有効に活用して欲しいと思う。

有効活用のためには、規格の本質を理解することが必要だ。これは条約でも法律でもない。ISOお得意の認証規格でもない。世界最大の民間標準化機関であるISOが、全ての組織に社会的に責任ある行動をとらう、と呼び

かけたものである。そこには環境保護から人権尊重、コミュニティの発展に至るまで、幅広いテーマで400を超えるアクション例が記載されている。

難航する気候変動の国際交渉では、先進国の歴史的責任にもとづいて国家間の「共通だが差異ある責任」の原則が強調された。しかしISO26000ではあらゆる組織が過去の歴史よりも未来を向いて、「差異はあっても共通の責任に着目して主体的に行動しようと呼びかけている。これが規格の根本理念であり、ユニークな点だ。

もうひとつのユニークさは、「どう作られたか」という点にある。この規格では、企業やNGOをはじめ政府、

■まとめ

淡海ネットワークセンターでは、市民活動団体と企業や行政が出会い、対話の機会となる協働サロンを開催しています。このような出会いからお互いに信頼関係を築き、地域課題を解決するための協働が生まれるきっかけにしてほしいと思っています。

また現在、市民の寄付を市民活動に助成事業でつなげる「未来ファンドおうみ」の創設に向けて準備をしています。寄付を継続していただくためには、市民活動団体が活動をとおして共感や信頼を得ることが大切です。

これからも市民活動団体、企業、行政、個人が利害や枠組みを超え、信頼と対話につながる出会いを作りたいと思います。

< SRに関する参考図書のご紹介 >

「社会的責任の時代」

(功刀達朗・野村彰男 編著)東信堂 2008年

「これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ—」

社会的責任向上のためのNPO / NGOネットワーク 2010年

労働界、消費者、有識者という6つのセクターが対等の立場で徹底的に議論して合意を積み重ねてきた。ISO史上初のマルチステークホルダー・プロセスである。また前例のないほど多くの途上国が参加した。多様な意見をまとめあげるのは容易なことではない。結果的に予定を上回る5年という歳月を要した。

どのセクターも規格作りに大いに貢献したが、個人的にはとりわけ合意形成に貢献した何人かのNGOの委員が印象に残っている。鋭く対立する意見を何とかまとめあげようと、積極的かつ公平に調停案を作成するなど、りっぱな態度を買った人々である。創造的な対話とは何か、信頼関係を築く対話

の作法、建設的な議論を導くファシリテーションの重要性、その中で果たしているNGOの役割。それらを身をもって示してくれた、と思う。

あらゆる組織が参画し、市民とともに社会を変えていく。ISO26000はそんな新しい時代の幕開けを告げる規格と言っているだろう。ISO史上最大の作業部会について合意に至った国際的な行動規範。その浸透は本当に世界を変えていくだろうか？ 壮大な実験の行方とともに、作業部会のもうひとつの成果、規格開発プロセスで培われた対話のノウハウを今後どう生かすことができるかにも注目したいと思う。

ISOとは、国際標準化機構(International Organization for Standardization)、または略称ISO(アイソ、アイエスオー、イソ)は、工業分野の国際的な標準である国際規格を策定するための民間組織。

話 長浜み～な編集室(長浜)

「長浜みく～な」(一九九七年から「みく～な」
「わ湖から」と改称)は一九八九年七月に創刊
し、二十年以上続いている
湖北発の情報誌です。「みく～
な」とは、「読ん
でみく～な、見
てみく～な」とい
う「:」して「ら
ん」という方言
です。機関誌
で年に四回、
三、四千部発
行しています。



▲湖北発の情報誌「長浜み～な」

自分たちの住んでいる
まちをもっと知ろう、
「知ってるつもり」の再発
見」が誕生のきっかけで
す。
月に二回編集会議が
行われ、十数名のスタッ
フが手弁当で関わって
います。ときには、講師を招いてレクチャー
を受けます。編集長の小西さ
んは「まずは、自分が知ることが一番」と
話してくれました。スタッフは「湖北がす
き」という方々が集まり、歴史や産業な
ど地元密着のネタを中心に取材し、記事を
書き、精力的に活動を行っています。



●長浜み～な編集室の会議風景

今後の目標は、みく～なを続けて発行する
こと、ウェブ関係でもみく～なが広がって
いく工夫をしていきたいと小西さん。イン
ターネットで調べればさまざまな情報が
出てくる時代ですが、人の言葉を通しての
話を大事にして活動されています。
(おうみネットサポーター 山名朋希)

長浜み～な編集室

代表●小西光代 設立●1989年
会員●個人スタッフ 10数名
会員企業●26団体
連絡先●長浜市元浜町 14-23
TEL : 0749-63-0317 FAX : 0749-63-0400
URL : <http://www.n-miina.net/>
e-mail: biwako@n-miina.net



▲取材風景

輪

NPOの

わっ WAA

和

話

地域や社会を良くしていきたいと
がんばっている市民活動・NPOを紹介します。
興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

おうみネットを一緒につくりませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。
興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「お
うみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提
供から取材・執筆までを行っています。



話

輪



●有機栽培で生産しているの
で、草の管理が重要です。
コツコツと作業が進められ
ています。

和



●廃材を使ったチンドン屋さ
んは子どもたちの人気者。

二〇〇七年の十月、新たなイベント「守山野外美術展 お寺 de アート」が守山市の東光寺にて開催されました。運営は実行委員会を兼ねた川本哲慎さん(おうみ未来塾11期生)と犬飼美也妃さん、ほかに八人のアーティストが参加。寺院建築と現代アートとの組み合わせが地元からも好評で、盛況なスタートを切りました。今年五月、三回目のテーマは「廃材ってカッコイイ!」。イベントの広報のために犬飼さんたちが扮するチンドン屋さんがまちを練り歩くと、その後ろを子どもたちがぞろぞろついて来て、「ハーメルンの笛吹き」さながらだったそう。手作りの廃材楽器で即興の音楽、そしてパフォーマーのダンス。やっ

子どもたちが大コーファン! まちに溶け込むアートイベントを仕掛ける芸術家集団



▲「第三回お寺 de アート in 東光寺」チラシ

てきた子どもたちも共に演奏し、踊り、自らが生きたアートとなったといえます。イベントの根底にあるのは「アーティストが社会の中でその力を使えば、社会をもっと豊かにできる」という考え方。ヨコシでは報酬面でもアーティストの社会的評価

を高めるとともに、運営基盤を固めようと資金調達にも努力しています。今年から団体名をヨコシに変更し、みごと一件の助成金を獲得しました。東光寺がご実家で地元信用がある川本さんが地域とのつなぎ役を、犬飼さんは没社会的になりがちなアーティストたちのまとめ役を担当。「幸津川は私の第二の故郷。この子どもたちがどう成長していくのか見守りたい」という犬飼さんの言葉からも、このユニークなアート集団が地元を受け入れられているのを感じました。(おうみネットサポーター 幡 郁枝)

m-fat (モファ) More Field Art Team

代表●川本哲慎
設立●2007年
スタッフ●6名
連絡先●守山市幸津川町1189
TEL & FAX : 077-585-2222
e-mail : m-fat@usenet.net
URL : http://openart.exblog.jp/



▲現代アートと日本古来の美術=お寺が競演!

働きやすい環境で、就労のための心構えを身につけてほしい

高島市マキノ町で精神障害者の自立支援としてラズベリーの栽培を行っているNPO法人近江湖西会。代表の加河昇さんにお話を聞きました。

加河さんは、自治会長をしてきた二〇〇五年、福祉関係の仕事をする奥様に誘われて高島市精神障害者家族会の総会に参加しました。これをきっかけに、家族会を活性化しようと、代表としてNPO法人近江湖西会を設立。マキノ町にあるバラ園を再生してマキノバラ園作業所を開所しました。「バラは世話をするとよく咲きました。しかし、



▲ラズベリーの果実は生で販売されているものが少ないので貴重品。地元洋菓子店のケーキを飾っています。

販売は難しかった」そうです。二〇〇九年四月には就労支援B型施設の認可を受け、現在は外部下請け作業として電機メーカーなどの部品加工を行っている、自主作業としてラズベリー栽培、果実の販売とジャム加工を行っています。ラズベリー栽培は、二〇〇六年に高島市商工会の「ベリーフルーツの里委員会」に参加し、ラズベリーの苗木など各十本の提供を受け

販売は難しかった」そうです。二〇〇九年四月には就労支援B型施設の認可を受け、現在は外部下請け作業として電機メーカーなどの部品加工を行っている、自主作業としてラズベリー栽培、果実の販売とジャム加工を行っています。

て始めました。さらに、おうみNPO活動基金助成で栽培用ハウスを建て、本格的に栽培を開始。年間を通じて作業できるように、生産も増えています。果実は地元洋菓子店に卸し、ジャムは地元農産物直売所で販売予定です。現在、ラズベリーは約千本に増え、苗の販売も始めています。「外部下請け作業は納期と品質の管理ができないと取り引きできません。またジャム作りも衛生管理は特に注意しています。作業者には時に厳しいことも言いますが、働きやすい環境を提供しながら、仕事をするとはどういうことか知って欲しいと思います」。大手電機メーカーで培われた加河さんの仕事への姿勢こそが自立支援につながるのだと感じました。(淡海ネットワークセンタースタッフ 坂下靖子)

特定非営利活動法人 近江湖西会

代表●加河 昇
設立●2005年
会員●25名
連絡先●高島市マキノ町大沼411-2
TEL & FAX : 0740-20-1144
e-mail : ohmi-bara@maroon.plala.or.jp




▲どんどん増えるラズベリー。ジャム加工や苗販売などを増やし、高島市外へも販売ルートを広げたいと目標を持っています。




市民活動、NPO 運営のご相談いつでもどうぞ！

市民活動、NPOの運営についてご相談を受け付けています。お電話、メール、直接お越しいただいても結構です。ご連絡お待ちしております。

●最近の相談事例

 県内で葬祭業をしている会社です。毎年、会員向けに人形供養をしております。供養後のぬいぐるみなどの一部を県外の国際協力団体へ寄贈していましたが、せっかくなので滋賀県内の市民活動団体へ寄贈したいと思っています。どこか寄贈先となる団体を紹介してもらえますか？どのような広報媒体がありますか？

 淡海ネットワークセンターでは、月3回程度、メールマガジンを発信しています。市民活動に感心をお持ちの方、約1,000件の登録があります。メールマガジンと当

センターブログでの掲載により広報することができます。また、滋賀県社会福祉協議会から毎月ボランティア情報チャンネルが発信されています。そちらへの掲載もお勧めします。さらに広く広報をしたい場合は、市役所や県庁の記者クラブへの資料提供をすることもできます。

- ・滋賀県社会福祉協議会
ボランティア情報チャンネル
TEL：077-567-3920
- ・滋賀県広報課
(県庁記者クラブへの資料提供先)
TEL：077-528-3043

●ミニ講座：毎月第2金曜日 14：00～15：00

NPO・市民活動って何？ NPO法人設立のメリット・デメリットは？ NPO法人設立の手続きは？など市民活動・NPO活動についてのミニ講座を開催しています。お気軽にご参加ください。

おうみ未来塾一般公開講座を開催します！

市民活動が地域活性化を促し、地域運営の一翼を担うようになった今、「おうみ未来塾」は広いネットワークと創造力で課題解決に取り組む「地域プロデューサー」が育つ場を目指しています。今回は、現在学んでいる11期のおうみ未来塾の一般公開講座です。たくさんのご参加お待ちしております。

- 日時：9月25日(土)受付13:00～ 開始13:30～
- 場所：大津市立木戸公民館 3階 大会議室
- 資料代：500円
- 内容/テーマ：地域ビジネスの組み立て方
講師であるNPO法人えがおつなげて 代表理事 曾根原久司さんが実践してこられた都市農村交流の地域ビジネスモデルをお聞きし、課題・ニーズと地域資源を結びつけて、地域ビジネスモデルを創出する技術を学びます。

第4回協働サロン2010年 地域資源を使って想いをカタチにする

地域をよくしたいとコミュニティ・ビジネスを展開している・したいと思っている方々に集ってもらい、地域資源を使った地域連携の新しいカタチを見つけていくサロンを開催します。

- 日時：10月30日(土) 14：00～16：30
- 場所：ファブリカ村 東近江市佐野町657 北川織物工場
- 内容：NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター代表理事の永沢映氏から、全国の状況、地域プロデューサー事例をお聞きしながら、参加者同士で地域ビジネスの新しいカタチを学び合います。

未来ファンドおうみ助成事業2011のお知らせ！

おうみNPO活動基金とびわこ市民活動応援基金の助成募集を行います。
 募集期間：2010年12月1日(水)～2011年1月15日(土)
 助成期間：2011年4月～2012年3月 ※詳細は次号でお知らせいたします。

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間／9:00～17:00 休館日／月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
 県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、各地域環境総合事務所、県情報室など

編集後記

● み～なは何回か読んだことがあったのですが、取材後、最新号を読んでみました。歴史の話も興味深いですが、「いぶきやまといぶきさん」などのような地元密着・住民目線のネタもおもしろかったです。市民や企業などみんなで協力して出来上がった情報誌というところがすてきだなと思いました。(おうみネットサポーター 山名朋希)

● 高島市で農園をしており、近江湖西会さんを一度お訪ねしたいと思っていました。雪害や獣害もあり大変だったこともあったようですが、あきらめず続けること、アイデアを現実にしていく行動力が大切だと感じました。(淡海ネットワークセンタースタッフ 坂下靖子)

● お寺deアートin東光寺は、ずっと気になるイベントだったのでまだ一度も行ってないです。今回m-fatのお二人とお会いすることができ、お話を伺っていると、なんで行かなかったのが悔しくなるほど楽しそうなイベントでした。子どもたちが目を輝かせてこのイベントに入り込んでいるのが見えるような気がしました。来年こそ!!(おうみネットサポーター 幡 郁枝)

ガソリンスタンドはまちのエコロジーステーション
 廃食油回収しています。回収場所のMAPはWEBをご覧ください。

バイオディーゼル好評発売中。

あぶらとう
 廃てんぷら油リサイクル燃料 油藤商事株式会社

●本社SS 犬上郡豊郷町高野瀬 ●彦根インターSS 彦根市里塚町
 http://www.aburatou.co.jp

びわ湖環境ビジネスメッセ

2010.10.20WED～22FRI 10:00-17:00
 (最終日は16:00まで)

会場：滋賀県立長浜ドーム

びわ湖メッセへはJR&シャトルバスで!

http://www.biwako-messe.com



ウィズガス

クリーンエネルギー天然ガスの普及を通じて
 地球環境の保全に努めています

Design Your Energy 伊勢多摩町

大阪ガス

http://www.osakagas.co.jp/

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
 「おうみネット」 掲載広告募集中!

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約1,900カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!

